

いのち
生命のにぎわいとつながり

No.82

令和6年6月

国内には、わかっているだけでも2,000種を超える外来種があります。令和6年4月1日現在、159種の動植物が特定外来生物に指定されており、千葉県内ではそのうち46種が確認されています。今号では、県内では確認されていませんが今後侵入する可能性が考えられる特定外来生物のうち、クビアカツヤカミキリについて特集します。

特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」について



クビアカツヤカミキリの交尾（県外で撮影）

近年、サクラやモモなどに被害をもたらすクビアカツヤカミキリの分布が近県でも広がってきています。

国内では、平成24年に愛知県で初めて確認されました。その後は分布を拡大し、令和6年4月1日までに13都府県で侵入が確認されています。本種の詳しい侵入経路は不明ですが、成虫の飛翔に加え、木材や荷物などに成虫がついて運ばれるなど、人の移動に便乗して分布が拡大していると考えられています。

CONTENTS

- 1 特定外来生物クビアカツヤカミキリについて 1
- 2 リーフレット『特定外来生物 ナガエツルノゲイトウにご注意ください』を発行しました 3
- 3 生命のにぎわい調査フォーラムを開催しました 3
- 4 千葉県の希少種（シャジクモ） 4

◎クビアカツヤカミキリとは

クビアカツヤカミキリ (*Aromia bungii*) は中国、朝鮮半島、ベトナムなどが原産のカミキリムシ科ジャコウカミキリ属のカミキリムシです。平成30年1月に特定外来生物に指定され飼育や運搬等が原則禁止となっています。

成虫の体長は25～40mm程度で、体全体が青みを帯びた黒色で、艶々とした光沢があります。また、前胸部（クビのように見える部分）が赤く両側に一对の突起があります。雄は雌に比べて触角が長いのが特徴です。

幼虫は樹木の内部を摂食し、2～3年かけて成長します。その際、木屑と幼虫の糞が交じった「フラス」と呼ばれる屑を排出し、ある程度成長すると幹や枝に穴をあけて、木の中のフラスを外に出します。クビアカツヤカミキリの場合、5～9月頃に盛んにフラスを排出します。フラスは他のカミキリ等も排出しますが、クビアカツヤカミキリの場合はフラスの量が多く、うどん状の連なった形が特徴のひとつです。



クビアカツヤカミキリのフラス（県外で撮影）

幼虫は樹木内で成長したのち蛹となり、国内の発生地では6月中旬～8月上旬頃に成虫となって樹木の外に出てきます。成虫はその直後から交尾することができ、樹木の樹皮の割れ目などに直径1～1.5mm程度の小型の卵を産卵します。産卵数は最大で1,000個以上と数が非常に多いのが特徴です。

産卵された卵は8～9日後に孵化します。成虫の寿命は野外では1ヶ月程度で、成虫で越冬はしません。

◎クビアカツヤカミキリによる被害について

クビアカツヤカミキリは、国内では主にバラ科の樹木に加害しています。幼虫が樹木内部を摂食することで、樹木は大きなダメージを受けてしまい枯死するなどの被害が確認されています。バラ科の樹木であるサクラはクビアカツヤカミキリによる被害が確認されており、分布拡大した場合、地域で親しまれている桜並木なども被害を受ける可能性が考えられます。また、モモ、スモモ、ウメなどのバラ科の果樹への被害も確認されています。さらにこのような被害は景観や農業被害だけでなく被害木の落枝、倒木などによる人的被害の発生につながる恐れもあります。

その他、在来のカミキリムシとの競合や樹木の枯死による森林生態系への被害も考えられます。



幼虫の食痕（提供：埼玉環境科学国際センター）

◎対策など

千葉県では現時点で侵入は確認されていませんが、隣接する茨城県、東京都及び埼玉県で生息が確認されているため、千葉県内にも既に侵入している可能性も考えられます。他県と同様にサクラや果樹が被害を受ける可能性が考えられるため、バラ科樹木等を多く植栽している場所では特に日頃から注意して観察や点検をお願いします。

本種の対策として、成虫を見つけた場合は分布を広げないように捕殺するほか、侵入孔、脱出孔やフラスが見つかった被害樹木は、ネット掛けによる捕獲や種の確認、状況により伐採や薬剤（農薬）処理

による拡散防止などの対策が必要になります。

もし、県内で大量のフラスや成虫を見かけた際には、生物多様性センターまで情報をお寄せください。

(佐藤 哲也 千葉県生物多様性センター)

**リーフレット『特定外来生物
ナガエツルノゲイトウに
ご注意ください』を発行しました**

千葉県には、人によって持ち込まれた多様な外来の動植物が生息・生育しており、その概要は『千葉県の外来生物リスト2020年改訂版』として発行され、生態系または人に対する被害等の影響度をまとめています。中でもナガエツルノゲイトウ等の一部の水生植物は、河川や農業水路、水田等で爆発的に繁茂し、生物多様性への影響だけでなく、水路の通水障害、農業への被害、水質の悪化等の深刻な問題を引き起こしています。



水面に繁茂するナガエツルノゲイトウ

このような外来種の防除には、その外来種の外見の特徴や生態、正しい除去の方法を知ることが大切です。そこで、生物多様性センターでは早期発見と防除を促進するため、『特定外来生物 ナガエツルノゲイトウにご注意ください』リーフレットとポスターを製作しました。紙面では、本種の特徴を間違えやすい植物のイラスト付で解説し、除去する際の注意点、発見した時の対応方法、生育する場所等を取り上げています。こちらのリーフレット・ポスターは、生物多様性センターホームページでも閲覧、ダウンロードできます。本種の分布をこれ以上広げないためにも、ぜひ御活用ください。

(下稲葉 さやか 千葉県生物多様性センター)



閲覧用QRコード



リーフレット「特定外来生物 ナガエツルノゲイトウに
ご注意ください」表紙

**生命のにぎわい調査フォーラムを
開催しました
令和6年3月2日(土)**

生命のにぎわい調査団は令和6年3月末で設立から15年8ヶ月が経過し、団員数は約1,800名、報告件数は146,000件を超えました。

令和6年3月2日(土)に、中央博物館講堂で調査フォーラムを開催し、51名(団員と同伴者42名、職員9名)が参加して、千葉県の生き物について情報交換しました。今回はセンター職員による3件の情報提供と、調査団員5名から観察事例を紹介していただきました。また、調査団員からの投稿による写真コンテストの結果発表、受賞作品に合わせた詩の朗読も行いました。

1 生物多様性センターからの情報提供

- ・「千葉県レッドデータブック 植物・菌類編2023年改訂版の紹介」下稲葉さやか
 - ・「外来種をめぐる近年のトピック」村井貴幸
 - ・「生き物調査報告のデータ解析」加賀山翔一
- 令和5年に公開したレッドデータブック植物・菌類編の改訂版の概要と、令和5年度にできた「条件付特定外来生物」制度を解説しました。また、団員による調査報告のデータ解析で明らかになった、県内の外来種や在来種の分布状況を紹介しました。

2 調査団員からの情報提供・観察事例紹介

- ・「千葉市中心部の都川と周辺に生息する自然生物紹介」高見 等

・「四街道市内で見つかった特定外来生物の現状」
和田 信裕

・「谷津の保全と生態系」 吉木 保

・「2023夏 がんばれ検見川コアジサシ」 岡部 雅子

・「タカ・ハヤブサに会う」 中込 哲

団員からは、県内の都市部から里山、海岸における多様な生物の観察の成果や、鳥類の観察方法について発表していただきました。

3 調査団員からの情報提供・観察事例紹介

フォーラム参加者の投票により、応募37作品から最優秀賞と優秀賞を決定しました。これらの作品は、センターの年報の表紙などに使わせていただきます。また、生物多様性センター賞も設けました。受賞作品には、ポエトリー・スラムW杯日本代表詩人でもある大島健夫が、受賞作品に詩を添え、一番のお気に入り写真に「大島賞」を捧げました。応募作品37点は、トピックス展「生命（いのち）のにぎわい」写真展として、3月5日（火）～5月6日（月・休）の期間、中央博物館で展示され、9,986人にご来場いただきました。

（下稲葉 さやか 千葉県生物多様性センター）



★写真コンテスト最優秀賞★ ニホンイタチ 井上 茂さん



写真コンテストの様相

千葉県の希少種

シャジクモ



（千葉県レッドリスト・重要保護生物B）

シャジクモは、シャジクモ目シャジクモ科に属する淡水藻類です。最大で約40cmほどになり、透明感のある緑色をしています。世界各地に分布し、日本でも北海道から沖縄の水田やため池、湖沼等に生育しています。シャジクモは仮根で水底に根づき、主軸が立ち上がり小枝を輪生するので藻類というよりは、スギナのような見た目をしています。また、車軸藻類の生態系における役割としては、水域の透明度を高く維持する、小型水生生物のすみかや餌になり、アオコといった植物プランクトンの異常発生を抑制する等が挙げられます。

国内には約70種の車軸藻類が確認されていますが、開発や富栄養化などの要因により激減しており、そのほとんどが絶滅の危機に瀕しています。実際シャジクモは環境省では絶滅危惧Ⅱ類、千葉県では「B（重要保護生物）」に指定されています。

ここまで説明してきましたが、実は車軸藻類について分類や生態等わかっていないことが多いのが現状です。これは国内に車軸藻類の研究者が少なく、生育地調査が不足していることが要因の一つと考えられます。車軸藻類の絶滅を回避するには、多くの人が関心を持ち、いろんな場所で生育実態を把握することが重要です。実際に佐倉市において、学生さんが希少なクサシャジクモという車軸藻類を発見した事例があります。減少しているとはいえ、シャジクモは比較的普通に見られる種であり、県内の水田などの水辺にひっそり生えていることがあります。この記事を読んで気になった方は、ぜひシャジクモを探し、その発見情報をにぎわい調査団にお寄せください。

（森 晃 千葉県立中央博物館市民研究員）



生物多様性ちばニュースレター No82 令和6年6月30日発行

編集・発行

千葉県生物多様性センター（環境生活部自然保護課）

〒260-8682 千葉市中央区青葉町955-2（千葉県立中央博物館内）

TEL 043(265)3601 FAX 043(265)3615 URL <https://www.bdcchiba.jp>

リサイクル適性(A)
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。